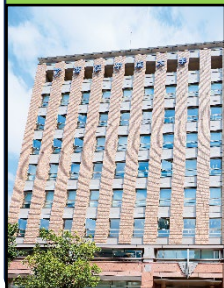


ハーブサプリメントの安全性



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 健康栄養学科 講師

端田 寛子 Hashida Hiroko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード : ハーブサプリメント・健康食品・安全性・有用性・Cytochrome P450

研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を

インターネットや通信販売ルート等の普及によりハーブサプリメントを含む様々な「いわゆる健康食品」が入手可能となったが、法的根拠に基づいた安全性が科学的根拠に基づいて評価されていない製品が少なくない。実際にハーブ類の効能を期待して製造されたハーブサプリメントによる健康被害が生じており、生体異物の主要処理器官である肝臓を標的とするものが多い。

そこで、健康被害の報告がほとんど見られない食品添加物の安全性評価法を参考に、肝薬物代謝酵素 (Cytochrome P450) を指標とした製品ごとのハーブサプリメントの安全性評価法を設計し、実施している。

これまで、抗不安作用があることが知られているカバ (*Piper methysticum*)、耐糖能効果が注目されているアマチャヅル (*Gynostemma pentaphyllum*)、偏頭痛やアレルギー性鼻炎に有効とされるバターバー (西洋フキ *Petasites hybridus*) 等の市販されているハーブサプリメントを対象として、製品ごとに医薬品との相互作用や系統差、性差等による薬物代謝酵素の影響を研究してきた。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

日本では法的根拠を持たないハーブサプリメントの利用に伴う消費者の健康被害を未然に防止するため、比較的簡便である本研究のような安全性評価法は、安全性に関する科学的根拠に基づく情報発信の一端を担うことができると考えられる。

これにより、ハーブサプリメントの利用に伴う消費者の健康被害を未然に防止できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

・「Application to Butterbur Products of a Suggested Daily Intake-Based Safety Evaluation of Individual Herbal Supplements with Cytochrome P450 Expression as a Major Index」

・「Science-Based Ratings of Safety and Effectiveness of Ingredients of Health Foods Distributed in Japan Differ among Health Food Categories」

【学術発表】

・ハーブサプリメントの安全性評価：バターバー製品のラット肝臓・腎臓への影響